梶田叡一著「教師・学校・実践研究　人間教育の基盤を創る」金子書房 2005 年 8 月 25 日刊を読む(Ⅱ)

自己実現の力をつける

１．はじめに

（１）①一人ひとり、かけがえのない貴重な人生を与えられている

②だからこそ、自分に与えられた可能性を十分に開花実現するということが、誰にとっても生涯をかけた目標とならざるをえない

③学校教育を受けている年少の時期、人生の基礎・基本を形作りつつある時期に、生涯にわたっての自己実現を可能とする姿勢と力を涵養しておきたい

④毎日の授業で教科書を着実にこなしていく、というだけの教育活動では、到底この願いを生かすことは不可能

（２）①教師自身が自己実現ということについて明確なイメージを持っていなくてはならない

②子どものどのような姿が実現していけば、生涯にわたっての基盤としてそれが生きていくことになるのか

③具体的な形で考えておかなくてはならない

２．自己学習能力

（１）自己学習能力を育むことは重要な教育課題

（２）〈自己学習能力のポイントは２つ〉

①たとえ一人っきりであっても学んでいける力

②学習への意欲。自ら学んでいくためには、自分から頑張って取り組んでいこう、といった気持ちが大切

③そうした気持ちを生み出す動機づけ

④自発的自主的に一生懸命勉強しよう、というエネルギーの持ち方

⑤おもしろいからやってみようとか、やりがいがあるからやってみようとか、好奇心や効力感といった内発な動機づけの問題

（３）多様な学習形態を、１日のなかに、あるいは１週間のなかに組み合わせて、いろいろな学び方が身に付くようにもっていく

（４）①講義式の授業にきちんと耳を傾ける、という姿勢が育たなければ自己教育力ではない

②学ぶというのは、まず「まねび」だ

③学習の最初の段階では、お師匠さんのおっしゃることを素直に受け入れる。そしてそれを、己を空しくしてお師匠さんの枠組みにそった形で理解しようと努める

（５）①その上で、お師匠さんの教えてくれたものに自分なりの工夫を加え

②自分なりの工夫をして、やはり一歩そこから出なくてはならない

③お師匠さんの与えてくれた枠から一歩を踏み出さなくてはいけない

（６）そして最後は、自分の目指すところに向かって、自分の力で、一人だけで進んでいく。つまり一人旅である

３．自己教育力

（１）①いろいろな性格を持った学習活動を組み合わせてやっていく

②自己学習能力という発想の狭さを一歩踏み越えて

③自己教育力の発想

（２）①いろいろな学びの様式が身について、そしてＴＰＯに従って、その時その場の条件に従って、それぞれの学び方の使い分け

②ここでは自分はあえて受け身で学んでいこう。ここではあえて一人っきりで自分なりの課題意識を頼りに自分なりのやり方で学んでいこう。あるいは、ここではあえてグループをつくって、共に学んでいこう。こういった判断ができる

（３）〈学習を支えるエネルギー〉

①学習の意義、何故この学習をやらねばならないのか、この学習はどういう意味で大事なのか、ということが分からなくてはいけない

②自己評価とか自己統制

③自分自身を見つめ直し、自分自身に働きかけ、自分自身を支えて、自分自身を何とか一歩前に押し出す

④自分自身と対話しながら、自分の弱いところ自分の良いところを見付け、自分のまずい点をいろいろとカバーし、自分の良さを生かし、そういう自分をしっかり支えて、一歩ずつ先へ進んでいく

⑤しんどくても自分で自分を前進させていく

４．理想的自己のイメージ

（１）①自分の可能性を長い見通しのなかで開花実現していく

②自己に何を実現させるのか。理想的自己のイメージ

③人間としてのあり方・生き方を、自分なりにどう考えるか

④自分はどういう生き方がしたいのか、どういうあり方をしたいのか、

⑤小学生、中学生なら、自分はどういう高校生に、大学生に、社会人になっていきたいのか

⑥さらには、どのような老人として老後を過ごしていきたいのか

⑦トータルとして自分の一生をどのような形で構想したいのか

⑧自分自身のあり方・生き方というところまでイメージをふくらませて

⑨自分自身の志向性、オリエンテーション、進むべき道、を少しずつ考えていってほしい

⑩その方向へ向けて自分自身を少しずつ形成していく努力

⑪少しずつというは、これは本来ジグザグの道

⑫こういう方向に進んでいきたい、と思ったとしても、なかなかストレートにそういくとは限

らない

（２）①どこの中学、高校へいこうが、どこの大学へいこうが、あるいは大学なんかいこうがいくまいが、自分はこういうことを原理・原則にしていきていくぞ、というものをこそ、何とか少しずつ小学生、中学生の時期に築かせたい、あるいは育てていきたい

②もちろん生身の人間だから、受験に失敗すればすべてが嫌になるかもしれない。その上にまだ就職をどうするかということもある

③我々は否応なしに人生のいろいろな岐路に直面し、そこで不本意な選択を迫られることもある

（３）①しかし、不本意だろうと本意であろうと、誰もが自分の思ったとおり願ったとおりにいくというものではない

②だからどういうふうになろうと、自分はこういう原理・原則だけは大事にしてして生きていこう、自分が本当にやりたいことだけは妥協しないで大事にしていこう、こういった姿勢を少しずつでも築いていくようになってほしい

③うまくいかないときは、やはり落ち込むことがあるだろうけれども、落ち込んだ自分を自分自身で支えながら、これだけは大事にしていきたい、という方向に向かって、何とか自分自身を前進させていく力をつけていってやりたい

５．自分の使命を受けとめる

（１）①具体的な社会的役割は、そのときその場で一人ひとりに与えられる

②天命とでも言うべきものがあるから、先のことは誰にも分からない

③与えられた使命には逆らっても仕方がない

④私はこの世界で頑張るしかない、と自分に言い聞かせていかなくてはならない場合もある

⑤いつの間にかその仕事の世界に入ってしまっていて、気がついてみたらそれが自分の人生になっていたということがある

（２）①大事なのは、基本的な姿勢なり決意なり方向感覚なりである

②例えば、他人のために涙を流し、汗を流せる人間になりたい、といった気持こそが大切

③それをどのような仕事や役割を通じて具体的にやっていくか、ということは枝葉の問題

６．（１）①どういうことがあろうと、自分に与えられた使命は果たしていくとか

②いくらいいチャンスがあっても、こういうことは自分はやらないとか

③チャンスがあれば、こういう方向に向けて自分を伸ばしていきたいとか

④そういう原理・原則にかかわる問題を、少しずつ考えさせていきたい

⑤その方向へ向かって執拗に自分を支え、押し出していく、という力をつけてやりたい

⑥これが自己実現の力という発想の底にある考え方

７．①自己学習の力がつく、自己教育の力がつく、そしてそれを土台にして、自分なりに納得のできる人生を生涯にわたって自分の力で形作っていく

②自分自身の人生に自分で責任を持てるような生き方・あり方を、自分自身で創造していく
③こうした総合的な力の土台作りを、何とを小学校や中学校で、さらには高校や大学で、重要な教育課題として意識的自覚的に取り組んでいきたい

P82 ～ 89

2024 年 7 月 27 日（土）
林　　明　夫